

平成30年度 政策大綱

はじめに

当市では、平成 28 年に「アイネスしばた」と「イクネスしばた」がオープンし、平成 29 年に「ヨリネスしばた」が開庁しました。市制施行 70 年の節目に当たり、まちの中心に新たなランドマークがお目見えし、まちづくりの目標の一つとしてきた「まちの顔」が完成を迎えました。「札の辻広場」を中心として多くの市民が集い、特に親子連れや中高生が連日訪れるなど、新たな人の流れが生まれ、中心市街地は市民の期待と希望が生まれるエリアへと変貌しています。まさに「新生しばた」の幕開けに相応しい年となりました。

国内外の社会情勢では、少子高齢化社会による社会構造の変化や、長引く金利の低迷などが市民生活に大きな影響を及ぼしていることに加え、大規模な自然災害の発生やミサイル問題、テロなどの緊迫した状況により、日本を取り巻く情勢は急速に変化しています。

このように、激しく移り変わる社会情勢の中にあっても、「住みよいまち しばた」の実現に向けて、着実に歩みを進める必要があります。そこで、市民の安定した暮らしを実現するため、引き続き「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の3つの視点に重点を置き、まちづくりに取り組みます。

また、更なるまちの魅力と賑わいを創出するため、まちづくりのパートナーである関係機関・団体との連携を強化するとともに、市民自らが自主的に参画する「市民力」を活かしたまちづくりを推進します。併せて、行政自らが健全な財政を維持するため、行政評価の PDCA サイクルの中で、分析や検証の精度を高めながら、事務事業の改善を図り、より効率的・効果的な行財政運営に努めます。

そして、今を生きるあらゆる世代の人々がまちづくりの一翼を担い、このまちを変えるために挑戦すること、すなわち「Challenge for Change（変革への挑戦）」こそが、新発田の未来を切り開いていくものと確信しています。

これからは、前例にとらわれない新しい価値観や発想をもって、まちづくりを進めていくことが必要です。次の 100 年に向けて歩み始めた「新生しばた」の次の一步を、未来の主役である子どもたちや若い世代とともに踏み出します。

○「3つの視点」による「住みよいまち しばた」の実現

まちづくりにおいては、重視すべき3つの視点「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」を掲げ「住みよいまち しばた」を創造し、その実現に向け取組を進めています。

少子化対策

人口減少社会を迎える中で、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくためには、早急な取組が求められています。当市にとっても、子どもや若者世代の人口減少が喫緊の課題になっています。また、ライフスタイルの変化による若者世代の未婚化、晩婚化が進んでいることから、より多くの若者が結婚、出産の希望をかなえ、そして、安心して子育てができる魅力的な環境づくりを進めていくことが必要です。

産業振興

長引く景気の低迷や人口減少、少子高齢化の進展により、当市の産業を取り巻く情勢は、依然として厳しい状況にあります。産業は、地域の魅力を高め、地域経済の向上、市民の暮らしを支える重要な役割を担うことから、当市の持つ豊富な地域の資源や特性を最大限に活用するとともに、商工業、農業、観光などが連携し、産業振興を進めていくことが必要です。

教育の充実

「教育の充実」の主たる対象は子どもたちです。グローバル社会の到来、核家族化、多様化する価値観など急激な社会の変化と、あらゆる分野における実体験の不足やコミュニケーション能力の不足が、子どもたちの間に様々な問題を引き起こしてきました。当市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を育むことが必要です。そのためには、望ましい教育環境の実現と教育の質的向上に加えて、学校・家庭・地域が連携して子どもたちの教育の充実に取り組むことが必要です。

平成 30 年度は、しばた魅力創造戦略に掲げる「しごとづくり」「ひとの流れ」「結婚、出産、子育て」「まちづくり」の 4 つの基本目標や、当市が抱える課題に横断的に取り組み、3 つの視点を通じて、定住人口・交流人口の増加を図ります。

○人材確保と雇用の創出

人口減少が進む中で、市の基幹産業である農業では、農家数の減少や担い手不足などが、農作物の生産性にも深刻な影響を及ぼしています。

当市の農業を支える人材を確保するため、希望者が一人でも多く就農することができるよう機会の創出に努めるとともに、就農しやすい環境の整備を進めます。

また、中小企業等においても、就職希望者の減少や、企業側の求める人材が確保できないことによる労働力不足が懸念されています。

そこで、近隣の大学や専門学校等との連携を図りながら、就労希望者と企業をマッチングするインターシップや新規創業者に対するトータル支援、企業誘致や経営基盤を担保する制度融資などを引き続き実施し、多面的に「しごとづくり」を進める環境を整備します。

○地域ブランドの創造と産業基盤の強化

地方創生に向け、地域の魅力を活かして地域経済を活性化する様々な取組が、全国的に行われています。当市でも地域経済全体の発展を図るため、観光資源や農業資源を十分に活用して地域の魅力を創出するなど、新発田の特性を活かした、新たな地域ブランドが求められています。

観光面では、全国に誇る月岡温泉や市内に点在する観光資源を最大限に活用し、来訪者を引きつける魅力的な観光への転換を図るとともに、交流人口の増加を図るため、DMOの活動を本格的に軌道に乗せ、外国人旅行者をターゲットとしたインバウンド誘客をより一層強化します。

また、海外市場での新発田産農産物のブランド化に向けて、新たな販路の開拓や輸出品目の拡大を図るため、アウトバウンドに重点的に取り組みます。

さらに、農業経営の法人化をより一層推進し、農作物の生産量の拡大と経営の安定化を図ります。

○定住促進と新たな魅力の創出

地方暮らしに関心を持つ人が増加する中で、当市でも首都圏からの移住希望者へ新発田の魅力を発信し続けています。今後は、希望者の関心を具体的な移住に結び付けるための、より強い動機付けが必要です。

首都圏から一人でも多くの移住・定住者を迎え入れるため、新発田の暮らしを肌で感じてもらえる交流体験や相談体制の充実を図ります。

また、若者の市外への流出を食い止めるため、新発田の魅力発掘や情報発信を行う「未来創造プロジェクト」の活動を推進するとともに、市内の大学等や高校はもとより、小・中学校も含めた若者との連携によって、新たな魅力の発見や好感度を高めるプロモーションに取り組みます。併せて、「地域おこし協力隊」による積極的な情報発信によって、更なる交流人口・定住人口の拡大を図ります。

○賑わいの創出と人の流れの創造

交流人口の増加を図るためには、観光資源や歴史資源を核として、観光客が中心市街地を回遊し、賑わいを生み出す仕組みづくりが必要であるとともに、市内外への効果的な情報発信が不可欠です。

そのため、観光分野だけに取り組むのではなく、商業分野の関係団体や地域住民組織などとの連携を推進します。

また、更なる人の流れを生み出すため、市内で最大の観光入込客数を誇る月岡温泉を活かした戦略的なPRを進めるとともに、中心市街地へ外国人旅行者を誘導する新たなインバウンドの取組を推進します。

スポーツカルチャーツーリズムでは、中学校や高校と連携して合宿等の誘致をより一層強化するとともに、滞在する選手と市内の子どもたちや学生等の交流によって競技レベルの向上を図るなど、地域との繋がりや経済の活性化を図ります。

| | |
|---------------------------------|--|
| 結婚・出産・子育て（子育て支援と充実、教育など） | |
|---------------------------------|--|

○子育て支援環境の充実

核家族化の進展により、家庭環境が大きく変化し、子育てに対する価値観も多様化しています。社会の変化に応じた子育てを行うためには、「しばた流子育て支援サイクル」を確立し、安心して子育てができる環境を整えることが必要です。

そのため、子育て世帯や多子世帯の経済的負担の更なる軽減に取り組み、出生率の向上につなげます。また、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、男性の積極的な育児参加を促し意識向上を図る新たな仕組みを導入します。

さらに、妊産婦の出産後の不安を軽減し、安心して育児が行えるサポート体制を充実させるなど、「子育てするなら新発田」の更なるイメージアップを図ります。

これまで課題となっていた年度途中の待機児童が解消されましたが、一方で、今後も入園希望者の増加が見込まれることから、更なる子育て環境の充実を図ります。

○教育環境の充実

子どもたちが、心身ともに健康で、安全な学校生活を送るための配慮が今求められています。時代や生活環境の変化に応じた快適な教育施設等の整備を進めるとともに、いじめや不登校を解消するための体制を強化し、子どもたちにとって安全で充実した教育環境を提供します。

標準学力検査等により児童・生徒の学力の実態を把握し、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな学習指導を進め、更なる学力の向上と定着を図ります。また、地域の拠点施設を活用した学習支援を拡充し、地域が一丸となって子どもたちを支えます。

○安心安全な暮らしへの備え

近年、日本では、暴風や豪雨、地震等の自然災害や、国際情勢の悪化による新たな脅威が発生するなど、住民の安全を脅かす事態が頻繁に起きています。当市においても、緊急時に備えて防災対策を強化するとともに、日頃の防災訓練や防災教育を通じて、地域の防災力を高めることが重要です。

緊急時や災害時に迅速かつ適切な初期行動が行えるように、正確な情報を伝える手段として「緊急告知 FM ラジオ」の普及に取り組みます。また、地域の防災力を高めるため、「自主防災組織」の支援や、ハザードマップによる啓発を推進します。併せて、道路や橋梁などの経年劣化が進行していることから、今後も良好なインフラ環境を維持していくために、適切な点検と改修を進めます。

○持続可能な地域づくり

少子高齢化の進行や人口の減少によって、市民の生活基盤も大きく変化しています。今後も持続可能な地域の形成に向けて、地域の課題解決を支援する「中間支援組織」の活動を推進し、市民自らが積極的にまちづくりに参画する環境を整えます。

また、地域の実情に応じた利用しやすい公共交通基盤の整備を進めるとともに、「公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設等の適正な管理を進め、財政負担の軽減・平準化に努めます。

○心身ともに健康で暮らせる地域づくり

当市でも高齢化率の増加とともに、高齢者の一人暮らし世帯が急増しており、市民がいつまでも健康で暮らせる地域社会の実現が求められています。

そのため、医療や介護に依存せずに日常生活が送れるよう、運動習慣や疾病予防、健康増進などによって健康寿命を延ばす取組を推進します。また、「つながり」を基調とした地域社会を実現するため、地域での「支え合い」や「助け合い」の形成を促進します。加えて、地域住民の生きがいをサポートする体制を充実させるとともに、住民自らが参画する組織づくりを支援します。

○新たなまちの魅力の創造

イクネスしばたの来館者が 50 万人に達するとともに、ヨリネスしばたには学生が勉強に訪れるなど、中心市街地の人の流れに変化が見られ、市民にとっても魅力的な生活の一部として定着しつつあります。しかしながら、これまで以上に市民に愛され、観光客で賑わう「まちなか」を形成するためには、中心市街地の新たな魅力を発掘することが必要です。

中心市街地の新たな魅力形成に向けて、産学官金労言の更なる連携を進めるとともに、多くの市民が笑顔になれる新たな賑わいを創出するため、若者から高齢者まで世代を超えた交流を推進します。特に、小・中学生、高校生、大学生など、未来を担う若者が主体となって活躍できる機会を提供することで、中心市街地に新たな風を吹き込み、活気があふれる魅力的な街を生み出します。

また、中心市街地に点在する歴史的建造物や街なみなどの歴史文化遺産を活用しながら、「歴史のみち」や「水のみち」と調和した「美しさ」が際立つ景観を形成します。